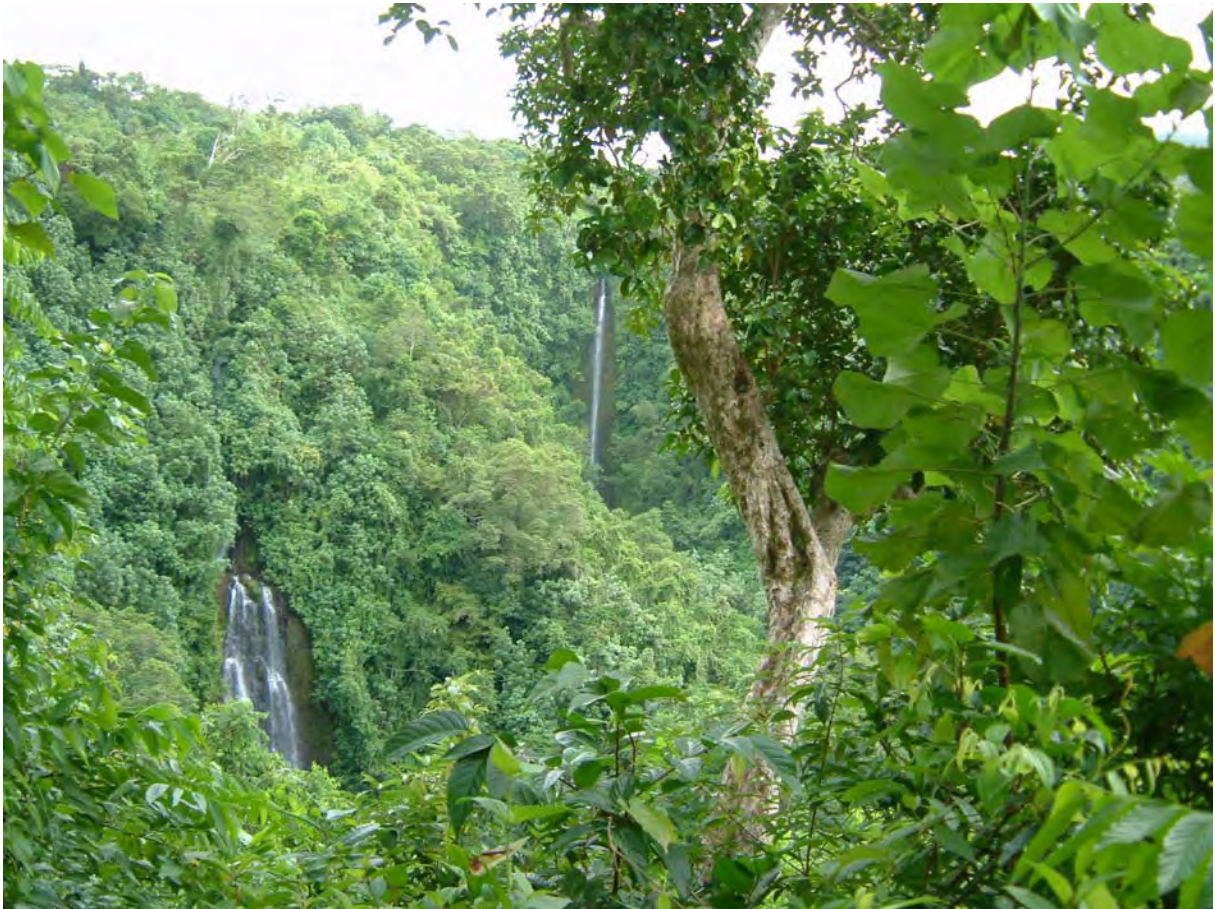


10. サラブックの双子滝

サーワルチック／サーワルラップの滝 (Sahwartik / Sahwarlap Waterfall)



サーワルチック（右）とサーワルラップ（左）の滝が一望出来るポイントです。

キチ自治区内にあります。コロニアから1時間弱南下し、キチ自治区を通過中左側に標識を発見出来ます。標識の道を3km程前進すると二つの滝に向かうハイキングコースに到着します。このコースを2~3分前進すると上の写真の二つの滝が一望出来るポイントに出ます。

ポンペイにこんな素晴らしい光景があったのかと思ってしまいます。文句無しの絶景です。

この地点までのアクセスは非常に簡単です。但し、二つの滝の滝壺まで接近しようとするならば、ある程度の覚悟と体力が必要です。150メートル（推定）近くを一気に下ります(帰りは登ります)。従い急斜面となっております。人はめったに通らなく、雨も多いため非常に滑りやすくなっています。滝に通ずる小川の中を進む事もあり足場に注意、足元にも注意が肝要です。

この地域に住んでいて、地理に詳しい案内人を必ずつけて下さい。

二つの滝はムォーンムウルとサラプァーウの兄弟がサベレン (Sapeleng) という特別な植物を使って創ったと言い伝えられています。そのため滝は兄弟にちなんでサーワルチック（弟）とサーワルラップ（兄）と名付けられています。

ここには多くの言い伝えがあるとの事です。

二つの滝に行く道中の雰囲気から言い伝えがある事が十分に頷けます。精霊達の息吹と加護を感じます。小川の水は冷たくて心地よく、空気は爽やかです。

二つの滝に至る道中で余裕があれば各種植物の観察を行って下さい。滝に通ずる小川には川エビが豊富です。

体力に自信の無い方、日頃不摂生を重ねておられる方には精霊達の加護は得られませんので二つの滝が同時に見えるポイントから先の滝壺近くに接近しようなんて考えないで下さい。

10-1. サワールラップ (Sahwarlap Waterfall)



二つの滝が見えるポイントから一気に下って20~25分で滝壺に到着します。
30メートル以上の高さから落下しています。この上にも数段の滝が連なっているそうです。
急な斜面を下りますので足元には充分注意して下さい。一気の坂道ですので途中で休む暇もありません。汗で衣服はグッショリと濡れますが心地よい気分になります。
滝に通ずる道、滝に通じる小川を歩いている際に何故か精霊達の息吹を感じます。
久し振りに訪れる人間に興味を持ってるんでしょうかね。

10-2. サワールチック (Sahwartik Waterfall)



サワールラップの滝より歩いて10分の距離にあります。

100メートル以上の高さより落下しております。トップから滝壺までの全体の勇姿を写せる場所が見当たらないのが残念です。

しばらく滝と対話します。

帰りは坂道を這う様に上ります。行きも帰りも結構ハードなコースです。

1 1. レーンパイポーンの滝 (Lehn Paipohn Waterfall)



ポンペイで最も大きく水泳に適した深い湖を持っています。
ポンペイ島が現在の規模より小さかった時代にはこの湖を利用し、湖底には太古の港を守っていた二本の柱があるとの言い伝えがあります。

右の写真は滝の注ぐ川の玄武岩の景観です。この川を下って滝に至るコースもあります。しかし2メートル以上の水深を泳いで渡る個所もあり日ごろ鍛錬していない方には奨められません。
この川下りコースは一種のアドベンチャーです。



キチ自治区にあり、コロニアから車で1時間弱進みキチ自治区を通過し左側のレーンパイポーンへの道を進みますが現在は標識が見当たりませんので案内人は途中でピックアップするのがベターです。粗悪な道を進みハイキング入口に到着します。そこから徒歩20~25分で滝のトップに到着します。トップから下に降りる道は十分に注意して下さい。
水泳に最適です。川エビや魚も豊富です。自然観察にも最適です。
滝のトップが見える場所から下に降りる道以外は比較的容易なコースですので弁当持参、水着持参で訪問して下さい。

1 2. シレウー山 (Silehu)



ポンペイ島の南にある山です。一周コースでないと見られませんが、その形から中々棄てがたい印象を与えてくれます。通過中の車から眺めますので記念撮影をするのを忘れがちとなります。ブラックコーラルやアンツ島からはそのシルエットが目に見えます。

海上から眺めると付近の山の姿が人の寝姿にも見え、この山は丁度お臍、出臍の様に見えます。何に見えるか一度確かめて下さい。

大雨の際に決まった場所に出現する臨時の滝や無名の滝を含め、まだまだ多くの景観がありますが次回に譲ります。

一日か二日の短期訪問者の方には全部を案内出来ませんが上手に計画すれば結構多くのポイントを訪れる事が出来ます。

多くの日本からの訪問者は『ノンビリするためにやって来た』とノーテンキな事を申します。

せいぜい一週間の滞在で、かかる気障なセリフを吐く方達に対し『それが希望ならホテルから一步も出なさんな』と優しく諭します。

ミクロネシアの人々と生き物達、海や山、川や滝の草花や自然は一生懸命に全力で呼吸してるのに故郷の方達はそれを『ノンビリ』と思い込んでるのでしょうか。

『ノンビリ』したいなら日本の家で寝てろと言うのが私の信念となりつつあります。

次はポンペイの周囲の島々、次いでコロニア市内を紹介します。